

未利用間伐材を活かした畜産向け「オガ粉製造」における新生産方式への挑戦

畜産業界のオガ粉の需要は増加している一方、製材所が減少傾向にあり安定したオガ粉の仕入が困難となってきた。当社は、畜産向けオガ粉の安定供給実現のため未利用間伐材の再資源化をめざす。



取り組みの背景

当社は、地域の製材所や木工所から木材加工時に発生するオガ粉やプレーナー（かんな屑）、パーク（木の皮）を仕入れて畜産農家等に販売してきた。しかし、近年、製材所の廃業や新築住宅需要の低迷によりこれらを安定的に確保することが困難となり、供給が需要に追いつかなくなりつつあった。また、バイオマス発電事業の普及により材料価格も高騰が続いた。オガ粉やプレーナーに代わる無

害で優良な畜産用敷材は未だ存在せず、畜産農家からの要望の声は非常に高い。このような状況を踏まえ、適正価格による畜産資材の安定供給をめざし、オガ粉の自社生産を開始することとなり、その生産能力をさらに強化するために今般の事業において大型オガ粉製造機を導入するに至った。

取り組みの内容



【大型オガ粉製造機】

従前から使用しているオガ粉製造機は、材料投入口の直径が18cmと小さく、機械に投入する前に材料を選別する必要があり、18cm

以上のものは、別途割り作業を行う必要があった。今般導入した新設備は、投入口の直径が50cmと大きく、材料の選別や割り作業を経ずに直接加工でき、許容範囲内の寸法であれば大小形の異なる材料でもまとめて投入することが可能である。また、機械は十分な剛性を持ち、モーターの動力も従前の4倍以上と強力で、硬く重い材料にも対応が可能である。さらに、加工後のオガ粉の粒子も十分に要求水準を満たしており、品質は安定している。できあがったオガ粉は機械の排出口から送風機によって吹き飛ばされ、保管スペースまで運ばれるしくみとなっており、広大なスペースを有効利用して十分な在庫量を確保できることから、顧客への安定供給が実現した。

当社の強み

- 1 必要な時に必要な量を安定的に提供できる製品供給力
- 2 一度に大量運搬できる自社配送体制
- 3 製材所や畜産農家等取引先との強固な信頼関係

事業の成果



【粒度別に保管されているオガ粉】

生産能力の増大と安定品質による製品の高付加価値化
新設備の1日(8時間稼働)の生産量は100㎡であり、従来設備の約5倍の生産能力を持つ。さらに、従来設備も同時稼働させることで1時間当たり合わせて15㎡の生産が可能となり、多台持ち効果も合わせ、生産性はこれまでの約12倍となった。また、新設備で生産するオガ粉の粒度は0.6～5mmの範囲で調整が可能であり、品質の安定度90%を実現した。近年、県の畜産振興施策により家畜の飼育頭羽数は増加傾向にあり、畜産農家からのオガ粉の供給増加の要望が根強い。新設備の導入により、良質なオガ粉を安定して供給することで製品の高付加価値化が実現し、当社の優位性が一層高まった。今後は、畜産農家の理解を得つつ価格交渉力も高めることでさらなる収益性の向上が期待される。



【オガ粉製造機の大口径投入口】

人員の有効活用による製品供給体制の強化

これまでのオガ粉の製造は、①材料の選別②材料の割り作業③オガ粉製造機への材料投入④保管槽への貯蔵という4工程で必ず2名の作業者が必要であった。これに対し新設備は、寸法が大きな材料でもそのまま投入することができることに加えて、形状の異なる複数の材料もまとめて投入できることから、上記①②の2工程が不要となった。そのため、作業員1名で対応することが可能となり、余剰となった作業者を製品の運搬業務に回すことで、大量に製造した製品を継続的、安定的かつ迅速に供給する体制としくみを整備することができた。結果として、売上高増加のみならず顧客の当社への信頼度が一層向上した。

企業概要

株式会社コバヤシ産業

- 事業内容：オガ粉、プレーナー、パークを原料とした畜産資材（敷材）、きのこと栽培資材、堆肥原料の製造、販売
- 主要生産設備：オガ粉製造機、パーク粉砕機、プレーナー粉砕機、ふるい機

設 立：昭和59年7月9日
代 表 者：代表取締役 小林 忠男
所 在 地：兵庫県朝来市和田山町竹田2113番地
T E L：079-674-0154
E - m a i l：kobayashi@koba-san.jp
H P：http://www.koba-san.jp/
従業員数：10人(令和2年11月現在)
資 本 金：300万円

社長の声



代表取締役 小林 忠男氏

林業・畜産業・農業をつなぐハブ企業として地域活性化に挑む

当社は、「無から有への挑戦!」を旗印にオガ粉の有効利用を核とした循環型システムの構築をめざし事業を推進しています。単に端材や未利用間伐材をオガ粉に変えて販売するだけでなく、林業、畜産業、農業といった異なる業界をつなぐハブとして、それぞれが抱える課題を解決する役割を担える存在になりたいと考えています。これら3つの産業はこの地域になくてはならない未来永劫存続していくべき産業であり、それらを支え、地域全体の活性化を実現することこそが当社の果たすべき責任と感じております。